

## 第 34 回建設業経理士検定試験 2 級

## 〔第 1 問〕

仕訳 記号(A～X)も必ず記入のこと

No.	借 方			貸 方		
	記号	勘 定 科 目	金 額	記号	勘 定 科 目	金 額
(例)	B	当 座 預 金	100,000	A	現 金	100,000
(1)	B	当 座 預 金	1,560,000	C W	有 価 証 券 有 価 証 券 売 却 益	1,500,000 60,000
(2)	G	建 設 仮 勘 定	5,000,000	L	営 業 外 支 払 手 形	5,000,000
(3)	J S	貸 倒 引 当 金 貸 倒 損 失	800,000 800,000	D	完 成 工 事 未 収 入 金	1,600,000
(4)	N	資 本 準 備 金	12,000,000	M	資 本 金	12,000,000
(5)	D	完 成 工 事 未 収 入 金	7,350,000	Q	完 成 工 事 高	7,350,000

## 〔第 2 問〕

(1) ￥ (2) ￥ (3) ￥ (4) ￥

第 34 回建設業経理士検定試験 2 級

〔第 3 問〕

未成工事支出金			
前期繰越	2,780,000	E	13,670,000
材料費	863,000	次期繰越	3,560,000
労務費	3,397,000		
外注費	9,595,000		
経費	595,000		
	<u>17,230,000</u>		<u>17,230,000</u>

完成工事原価			
D	<u>13,670,000</u>	F	<u>13,670,000</u>

完成工事高			
F	17,500,000	完成工事未収入金	15,500,000
		B	2,000,000
	<u>17,500,000</u>		<u>17,500,000</u>

販売費及び一般管理費			
××××	<u>529,000</u>	F	<u>529,000</u>

支払利息			
当座預金	<u>21,000</u>	F	<u>21,000</u>

損益			
E	13,670,000	A	17,500,000
G	529,000		
C	21,000		
繰越利益剰余金	3,280,000		
	<u>17,500,000</u>		<u>17,500,000</u>

完成工事原価報告書	
自 20×1年 4月 1日	
至 20×2年 3月 31日	
(単位：円)	
I. 材料費	757,000
II. 労務費	3,331,000
III. 外注費	9,004,000
IV. 経費	578,000
(うち人件費	65,000)
完成工事原価	<u>13,670,000</u>

## 第 34 回建設業経理士検定試験 2 級

## 〔第 4 問〕

問 1

記号 (A または B)

1	2	3	4	5
A	B	B	B	A

問 2

部門費振替表

(単位：円)

摘 要	工事現場			補助部門		
	A 工事	B 工事	C 工事	仮設部門	車両部門	機械部門
部門費合計	8,530,000	4,290,000	2,640,000	1,680,000	1,200,000	1,440,000
仮設部門費	336,000	924,000	420,000			
車両部門費	324,000	600,000	276,000			
機械部門費	480,000	720,000	240,000			
補助部門費配賦額合計	1,140,000	2,244,000	936,000			
工事原価	9,670,000	6,534,000	3,576,000			

## 第34回建設業経理士検定試験 2級

〔第5問〕

## 精 算 表

(単位：円)

勘定科目	残高試算表		整理記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
現金	17,500			7,000			10,500	
当座預金	283,000						283,000	
受取手形	54,000						54,000	
完成工事未収入金	497,500			9,000			488,500	
貸倒引当金		6,800	290					6,510
未成工事支出金	212,000		1,600	1,500			102,100	
			8,400	6,000				
				112,400				
材料貯蔵品	2,800		1,500				4,300	
仮払金	28,000			28,000				
機械装置	500,000						500,000	
機械装置減価償却累計額		122,000	6,000					116,000
備品	45,000						45,000	
備品減価償却累計額		15,000		15,000				30,000
建設仮勘定	36,000			36,000				
支払手形		72,200						72,200
工事未払金		122,500						122,500
借入金		318,000						318,000
未払金		129,000						129,000
未成工事受入金		65,000		16,000				81,000
仮受金		25,000	25,000					
完成工事補償引当金		33,800	5,000	1,600				30,400
退職給付引当金		182,600		11,600				194,200
資本金		100,000						100,000
繰越利益剰余金		156,090						156,090
完成工事高		15,200,000				15,200,000		
完成工事原価	13,429,000		112,400		13,541,400			
販売費及び一般管理費	1,449,000				1,449,000			
受取利息配当金		25,410				25,410		
支払利息	19,600				19,600			
	16,573,400	16,573,400						
通信費			5,500		5,500			
雑損失			1,500		1,500			
備品減価償却費			15,000		15,000			
建物			36,000				36,000	
建物減価償却費			1,500		1,500			
建物減価償却累計額				1,500				1,500
貸倒引当金戻入				290		290		
退職給付引当金繰入額			3,200		3,200			
未払法人税等				33,700				33,700
法人税、住民税及び事業税			56,700		56,700			
			279,590	279,590	15,093,400	15,225,700	1,523,400	1,391,100
当期（純利益）					132,300			132,300
					15,225,700	15,225,700	1,523,400	1,523,400

## 2級 解説

### 〔第1問〕

#### (1) 有価証券の売却

売買目的で所有しているA社株式は、有価証券勘定（資産）で処理されています。

(当 座 預 金)*1	1,560,000	(有 価 証 券)*2	1,500,000
		(有 価 証 券 売 却 益)	60,000

\* 1 520円×3,000株=1,560,000円

\* 2 500円×3,000株=1,500,000円

#### (2) 建設仮勘定

工事契約代金の前払分は建設仮勘定（資産）で処理します。また、有形固定固定の取得に際し振り出した約束手形は、通常の営業取引で用いる支払手形（負債）と区別して営業外支払手形勘定（負債）で処理します。

#### (3) 貸倒れ

前期の決算において、貸倒引当金を設定していた完成工事未収入金が発し倒れた場合は、貸倒引当金勘定（資産のマイナス）を取り崩し、充当できなかった金額は貸倒損失（費用）で処理します。

#### (4) 増資（資本準備金の組み入れ）

資本準備金を資本金に組み入れるということは、増資をするということになります。ただし、どちらも純資産の勘定になりますので、純資産の部に変化はありません。

#### (5) 工事進行基準

工事進行基準を適用している場合は、工事の進行具合に合わせて完成工事高を計上します。以下に前期からの仕訳を示します。

##### ①前期の完成工事高に関する仕訳

(完 成 工 事 未 収 入 金)	5,600,000	(完 成 工 事 高)	5,600,000
-------------------	-----------	-------------	-----------

$$\frac{35,000,000 \text{ 円}}{\text{請負金額}} \times \frac{4,592,000 \text{ 円}}{28,700,000 \text{ 円}} (0.16) = 5,600,000 \text{ 円}$$

##### ②当期の完成工事高に関する仕訳（本問の解答）

(完 成 工 事 未 収 入 金)	7,350,000	(完 成 工 事 高)	7,350,000
-------------------	-----------	-------------	-----------

$$\frac{37,000,000 \text{ 円}}{\text{請負金額}} \times \frac{10,745,000 \text{ 円} (*)}{30,700,000 \text{ 円}} (0.35) - 5,600,000 \text{ 円} = 7,350,000 \text{ 円}$$

(\*) 当期までの完成工事原価：4,592,000円 + 6,153,000円 = 10,745,000円  
前期の工事原価 当期の工事原価

なお、当期（第2期）において請負金額は37,000,000円に、総工事原価見積額は30,700,000円に変更されています。

〔第2問〕

(1) 賃金の計算

賃金

当月支給総額 4,260,000円	前月未払 723,000円
	当月の労務費 <b>4,358,000円</b>
当月未払 821,000円	

(2) 本支店会計

本店の仕訳

① 支店への備品の発送

(支	店)	85,000	(備	品)	85,000
----	----	--------	----	----	--------

② 支店からの送金

(現	金)	85,000	(支	店)	85,000
----	----	--------	----	----	--------

③ 支店の交際費の立替払い

(支	店)	15,000	(現	金	預	金	な	ど)	15,000
----	----	--------	----	---	---	---	---	----	--------

本 店

残高 152,000円	② 85,000円
① 85,000円	} 残高 <b>167,000円</b>
③ 15,000円	

(3) 銀行勘定調整表

当社の当座預金残高を100,000円と仮定して銀行勘定調整表を作成し、解答を求めます。

当社の当座預金残高	100,000	銀行の当座預金残高	70,000
②振込未通知	32,000	①時間外預け入れ	10,000
④引落未通知	△9,000	③未取立小切手	43,000
	123,000		123,000

当座預金勘定残高は、銀行の当座預金残高より30,000円多い。

(4) のれんの償却

買収したときの仕訳

(材	料)	800,000	(工 事 未 払 金)	1,200,000
(建	物)	2,200,000	(借 入 金)	1,800,000
(土	地)	1,200,000	(現 金 預 金 な ど)	5,000,000
(の	れ ん)	3,800,000		

のれんの償却

$$3,800,000円 \div 20年（会計基準が定める最長期間） = 190,000円$$

【第3問】

勘定記入

①未成工事支出金勘定

$$\text{借方 前期繰越} : \frac{186,000\text{円}}{\text{材料費期首残高}} + \frac{765,000\text{円}}{\text{労務費期首残高}} + \frac{1,735,000\text{円}}{\text{外注費期首残高}} + \frac{94,000\text{円}}{\text{経費期首残高}} = 2,780,000\text{円}$$

材料費：863,000円（材料費工事原価発生額）

労務費：3,397,000円（労務費当期発生額）

外注費：9,595,000円（外注費当期発生額）

経 費：595,000円（経費当期発生額）

合 計：17,230,000円

貸方 E完成工事原価：13,670,000円（貸借差額）

$$\text{次期繰越} : \frac{292,000\text{円}}{\text{材料費繰越額}} + \frac{831,000\text{円}}{\text{労務費繰越額}} + \frac{2,326,000\text{円}}{\text{外注費繰越額}} + \frac{111,000\text{円}}{\text{経費繰越額}} = 3,560,000\text{円}$$

合計：13,670,000円 + 3,560,000円 = 17,230,000円

②完成工事原価勘定

借方 D未成工事支出金：13,670,000円（未成工事支出金の貸方より）

貸方 F損益：13,670,000円（借方と同じ）

③完成工事高勘定

借方 F 損益：17,500,000円（記入済み）

貸方 完成工事未収入金：15,500,000円（記入済み）

B 未成工事受入金：2,000,000円（貸借差額）

合計：15,500,000円+2,000,000円=17,500,000円（記入済み）

④販売費及び一般管理費勘定

借方：合計（××××）：529,000円（記入済み）

貸方：F 損益：529,000円（借方合計と同額）

⑤支払利息勘定

貸方：F 損益：21,000円（借方合計と同額）

⑥損益勘定

貸方：A 完成工事高：17,500,000円（完成工事高勘定からの振替額）

合計：17,500,000円

借方：E 完成工事原価：13,670,000円（完成工事原価勘定からの振替額）

G 販売費及び一般管理費：529,000円（販売費及び一般管理費勘定からの振替額）

C 支払利息：21,000円（支払利息勘定からの振替額）

繰越利益剰余金：3,280,000円（貸借差額）

合計：13,670,000円+529,000円+21,000円+3,280,000円=17,500,000円

完成工事原価報告書の作成

I. 材料費

$$\frac{186,000\text{円}}{\text{月初有高}} + \frac{863,000\text{円}}{\text{未成工事支出金勘定より}} - \frac{292,000\text{円}}{\text{月末有高}} = 757,000\text{円}$$

II. 労務費

$$\frac{765,000\text{円}}{\text{月初有高}} + \frac{3,397,000\text{円}}{\text{未成工事支出金勘定より}} - \frac{831,000\text{円}}{\text{月末有高}} = 3,331,000\text{円}$$

III. 外注費

$$\frac{1,735,000\text{円}}{\text{月初有高}} + \frac{9,595,000\text{円}}{\text{未成工事支出金勘定より}} - \frac{2,326,000\text{円}}{\text{月末有高}} = 9,004,000\text{円}$$

IV. 経費

$$\frac{94,000\text{円}}{\text{月初有高}} + \frac{595,000\text{円}}{\text{未成工事支出金勘定より}} - \frac{111,000\text{円}}{\text{月末有高}} = 578,000\text{円}$$

経費のうち人件費

$$\frac{9,000\text{円}}{\text{月初有高}} + \frac{68,000\text{円}}{\text{〈資料〉より}} - \frac{12,000\text{円}}{\text{月末有高}} = 65,000\text{円}$$



## 〔第4問〕

問1 解答参照

問2 補助部門費の配賦（直接配賦法）

$$(1) \text{ 仮設部門費} : \frac{336,000\text{円}}{\text{A工事}} + \frac{924,000\text{円}}{\text{B工事}} + \frac{420,000\text{円}}{\text{C工事}} = 1,680,000\text{円}$$

(2) 車両部門費の配賦

B工事に600,000円が配賦されています。（記入済み）

そのため、未配賦額600,000円をA工事とC工事の配賦基準により配賦します。

$$600,000\text{円} \times \frac{135\text{t/km}}{135\text{t/km} + 115\text{t/km}} = 324,000\text{円} \text{ (A工事)}$$

$$600,000\text{円} \times \frac{115\text{t/km}}{135\text{t/km} + 115\text{t/km}} = 276,000\text{円} \text{ (C工事)}$$

(3) 機械部門費の配賦

C工事に240,000円が配賦されています。（記入済み）

そのため、未配賦額1,200,000円をA工事とB工事の配賦基準により配賦します。

配賦基準 A工事：10×40時間＝400時間

B工事：12×50時間＝600時間

$$1,200,000\text{円} \times \frac{400\text{時間}}{400\text{時間} + 600\text{時間}} = 480,000\text{円} \text{ (A工事)}$$

$$1,200,000\text{円} \times \frac{600\text{時間}}{400\text{時間} + 600\text{時間}} = 720,000\text{円} \text{ (B工事)}$$

(4) 補助部門費配賦額合計

$$\text{A工事} : \frac{336,000\text{円}}{\text{仮設部門費}} + \frac{324,000\text{円}}{\text{車両部門費}} + \frac{480,000\text{円}}{\text{機械部門費}} = 1,140,000\text{円}$$

$$\text{B工事} : \frac{924,000\text{円}}{\text{仮設部門費}} + \frac{600,000\text{円}}{\text{車両部門費}} + \frac{720,000\text{円}}{\text{機械部門費}} = 2,244,000\text{円}$$

$$\text{C工事} : \frac{420,000\text{円}}{\text{仮設部門費}} + \frac{276,000\text{円}}{\text{車両部門費}} + \frac{240,000\text{円}}{\text{機械部門費}} = 936,000\text{円}$$

(5) 工事原価

$$\text{A工事} : \frac{8,530,000\text{円}}{\text{部門費}} + \frac{1,140,000\text{円}}{\text{補助部門費}} = 9,670,000\text{円}$$

$$\text{B工事} : \frac{4,290,000\text{円}}{\text{部門費}} + \frac{2,244,000\text{円}}{\text{補助部門費}} = 6,534,000\text{円}$$

$$\text{C工事} : \frac{2,640,000\text{円}}{\text{部門費}} + \frac{936,000\text{円}}{\text{補助部門費}} = 3,576,000\text{円}$$

〔第5問〕

(1) 現金実査

(通 信 費)	5,500	(現 金)	7,000
(雑 損 失)	1,500		

(2) 仮設材料の評価(すくい出し方式)

(材 料 貯 蔵 品)	1,500	(未 成 工 事 支 出 金)	1,500
-------------	-------	-----------------	-------

(3) 仮払金

① (完成工事補償引当金)	5,000	(仮 払 金)	5,000
---------------	-------	---------	-------

② (10)の法人税等の計上で処理します。

(4) 減価償却費の計上(予定計算)

① 機械装置

機械装置の減価償却費については、工事現場用であり月額5,500円が予定計上(工事原価算入)されているため、決算時の実際発生額との差額は、当期の工事原価(未成工事支出金)に加減します。

(機械装置減価償却累計額)(*)	6,000	(未 成 工 事 支 出 金)	6,000
		減価償却費	

(\*)  $(5,500\text{円}/\text{月} \times 12\text{ヵ月}) - 60,000\text{円} = 6,000\text{円}$  (過大計上)  
                     予定計上額                    実際発生額

② 備品

(備 品 減 価 償 却 費)(*)	15,000	(備 品 減 価 償 却 累 計 額)	15,000
--------------------	--------	---------------------	--------

(\*)  $45,000\text{円} \div 3\text{年} = 15,000\text{円}$

③ 建物

イ 建設仮勘定の振替

(建 物)	36,000	(建 設 仮 勘 定)	36,000
-------	--------	-------------	--------

ロ 建物の減価償却費の計算

(建 物 減 価 償 却 費)(*)	1,500	(建 物 減 価 償 却 累 計 額)	1,500
--------------------	-------	---------------------	-------

(\*)  $36,000\text{円} \div 24\text{年} = 1,500\text{円}$

(5) 仮受金

① (仮 受 金)	9,000	(完 成 工 事 未 収 入 金)	9,000
-----------	-------	-------------------	-------

② (仮 受 金)	16,000	(未 成 工 事 受 入 金)	16,000
-----------	--------	-----------------	--------

(6) 貸倒引当金の計上

(貸倒引当金)	290	(貸倒引当金戻入)	290
---------	-----	-----------	-----

(\*)  $(54,000円 + 497,500円 - 9,000円) \times 1.2\% - 6,800円 = \Delta 290円$  (戻入額)  
 受取手形 完成工事未収入金 (5) ① T/B 残高

(7) 完成工事補償引当金の計上

(未成工事支出金)(*)	1,600	(完成工事補償引当金)	1,600
完成工事補償引当金繰入額			

(\*)  $(15,200,000円 \times 0.2\%) - (33,800円 - 5,000円) = 1,600円$  (繰入額)  
 完成工事高 T/B 残高 (3) ①

(8) 退職給付引当金

① 管理部門 (本社事務員)

(退職給付引当金繰入額)	3,200	(退職給付引当金)	3,200
--------------	-------	-----------	-------

② 施工部門 (現場作業員)

(未成工事支出金)	8,400	(退職給付引当金)	8,400
退職給付引当金繰入額			

(9) 完成工事原価

(完成工事原価)(*)	112,400	(未成工事支出金)	112,400
-------------	---------	-----------	---------

(\*)  $212,000円 - 1,500円 - 6,000円 + 1,600円 + 8,400円 - 102,100円 = 112,400円$   
 T/B 残高 (2) (4)① (7) (8)② 次期繰越

(10) 法人税等の計上

(法人税、住民税及び事業税)(*)	56,700	(仮払金)	23,000
		(未払法人税等)	33,700

(\*)  $(15,225,700円 - 15,036,700円) \times 30\% = 56,700円$   
 収益合計 費用合計